

学習の流れの例

- 1 家の特徴に合わせた雨風の対策を知り、自分の家に適した対策を考える
 - 例) マンションの高層階に住んでいるので、停電に備え食料を買いだめしておく等
- 2 p.29を参考に、避難する時の服装や持ち物について考える
 - 例) 避難所で時間を待てることを考え、ゲームや本を持って行く、冬場は寒いので毛布を持って行く等
- 3 グループワークや発表をして他の人の意見を聞き、自分の考えを広げたり深めたりする

学習後の生徒の姿

思考・判断・表現

大雨・台風の被害を防ぐために、自分の家に合わせた対策や自分自身に適した身支度を考えている。

二章 - 3 風水害

大雨・台風にも備える

気象情報などを利用することで、大雨や台風による被害を未然に防いだり、軽減することができます。事前に対策をとっておくことが大切です。

めあて 大雨・台風の被害を防ぐために、避難に適した準備ができる。

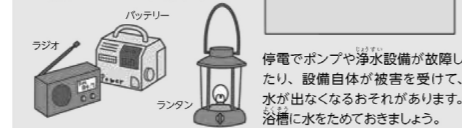
家の対策

雨風の影響を受けるとどのような被害が考えられるでしょう。被害を出さないためにできる対策を考えましょう。

- ベランダ**
 - 排水口、刺さりの詰まりをとっておく。
 - 物干し竿など落ちると危険なものを下ろす。
 - 軽いものは室内に入れる。
- アンテナ**
 - 不安定なアンテナを補強する。
- 屋根**
 - 瓦やとたんがめくれめたり壊れていないか確認する。
 - 雨どいに枯れ葉やゴミが詰まっていないか確認する。
- 窓**
 - 雨戸を閉める。
 - 飛散フィルムを貼る。
 - 板などで補強する。
- 土のう**
 - 玄関や縁側に置く。
- 背の高い木**
 - 添え木で補強する。
- 植木鉢**
 - 室内に入れる。

停電に備える

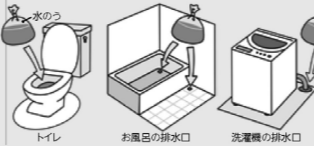
台風の影響で停電になるおそれがあります。バッテリーや、ランタンなどを準備しておきましょう。正しい情報の収集にはラジオが不可欠です。



停電でポンプや浄水設備が故障したり、設備自体が被害を受けて、水が出なくなるおそれがあります。浴槽に水をためておきましょう。

下水の逆流防止

急激な水位の上昇により、下水が逆流することがあります。ビニール袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果があります。



① 急激な水位の増加により下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがある。ビニール袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果がある。

※参照:国土交通省 家庭で役立つ防災「家庭でできる被害軽減の工夫をまとめました」浸水直前の対策～下水の逆流を防ぐ～

② 浸水発生時には土のうを設置することで、道路から家屋内への雨水の侵入を抑えることができる。設置は安易に行うことができると共に、各家庭の形態の違いに対応可能。土のうはホームセンター等で入手ができる。

※参照:平塚市「家庭でできる浸水対策」

③ 停電を経験した人が特に困ったこと。

- 1位:冷蔵庫が止まる
- 2位:照明が使えず、部屋が暗い
- 3位:冷暖房器具が使えない

※参照:ベネッセ教育情報サイト 「自然災害で停電したら困ることは？」

上記の経験者の声を聞き、この課題をどう解決すれば良いのか、その他にもどのようなことに困り、どう解決すれば良いのか考えられるようにする。

28

避難時の身支度

避難中は手をあけておいた方が、転倒時に手をつくことができて安全です。また、ふだん使う物や服に防水仕様のアイテムを取り入れてもよいです。

- ヘルメット・帽子**
 - ヘルメットをかぶり、飛んでくるものから頭を守る。ひも付きだと、風で飛ばされるのを防ぐことができる。
- リュックの中身**
 - 防水加工されているものがよい。一般的なリュックなら、中身をビニール袋に包み、水に濡れないようにする。
 - 雨で濡れたときのために、着替えも入れておく。
 - 携帯電話などが水に濡れて故障するのを防ぐため、持ち運びのときはチャック付きのポリ袋などに入れる。
 - その他
 - タオル
 - 着替え
 - 電池・モバイルバッテリー
 - 携帯電話
 - 軍手
 - 懐中電灯
 - 貴重品
- レインコート**
 - 上下セパレートタイプのものがよい。ポンチョは激しい雨の中では足元が濡れてしまう。あわせて防水のズボンをはくとよい。
- 注意**
 - もしも避難してしまったとき、黒や灰色の服は、薄暗く視界のわるい大雨の中では見つかりにくい。薄暗い中でも目立つカラーの服を選ぶ。
- 靴 (スニーカー)**
 - 長靴は中に水が入り、歩きづらくなることもある。

『長靴よりスニーカー』はまっ子防災マンガく風水害編>



29

① 避難するための時間的な余裕がある場合、寝袋や毛布といった寝やすくなるものを持って行くのもおすすめ。

※参照:江戸川区 「避難所に行くなら「非常持ち出し袋」をぜひ持ってきてください!」

② タオルを頭にのせ、その上から帽子をかぶると帽子だけをかぶるより頭を保護することができる。

※参照:国土交通省 山形河川国道事務局 「知っておこう!いざという時の行動とふだんの心がけ。」

③ 避難時は安全を確保するため傘をさすのは避ける。上下分かれたレインコートが最善。

※参照:J-CAST 「長靴と傘はNG! 防災のプロが教える冠水時の正しい避難方とは」

④ 長靴は一般的にくつヒモがついていないため脱げやすく、転倒してしまう恐れがある。水位があまり高くないときでも、水位の上昇を想定して長靴は避ける。

※参照:くらしのなかに防災ニッポン 「水害に長靴はNG?役立つのは滑らず、脱げない靴!」

⑤ 台風や大雨は、ある程度事前の予測が可能。水害の恐れのあるときは、「明るいうちに」「天候が悪化する前に」早めの避難、「念のため避難」を心がける。暗くなってしまうと視界が悪くなり、明るいうちの避難より危険が多くなる。

※参照:こうち防災いちはん-NHK- 「台風・大雨 避難のポイント」

⑥ 避難時の持ち物はリュック一つ背負ってすぐに避難できる量にとどめることが重要。雨の中の避難となるため、防水仕様のリュックが望ましい。

※参照:横浜市民共済生活協同組合 「避難時の持ち物、最低限準備したいものはこれ!」

文字の色について

赤文字: 単語の意味の説明

青文字: 生徒への支援の視点や発展的な内容